

卒業研究	教 授 田地野 幹雄
------	------------

1. テーマ

現代社会におけるタックス・リテラシー（租税に関する認知力）の修得と醸成

2. ゼミのねらい・概要

専門ゼミで学習した基本的な租税の知識をベースとしつつ、租税に対しての法律学からのアプローチを試みることに
より、経済社会人として実務に有用な、業種横断的で汎用性のある知識・技能としてのタックス・リテラシーの修得を
目指しながら、最終的に学生各人の卒業研究論文の完成へとつないでいく。

3. ゼミ計画

〈前期〉	〈後期〉
1. 租税の意義①（現代国家と租税）	1. 税法の構成と解釈との関係
2. 租税の意義②（租税の意義と種類）	2. 成分の税法・不文の税法
3. 租税の意義③（租税の根拠）	3. 法令解釈の必要性
4. 租税法の意義と特質①（租税法の意義と範囲）	4. 法令解釈の原理
5. 租税法の意義と特質②（租税法の特色）	5. 法令解釈の前提
6. 租税法の意義と特色③（租税法の位置）	6. 法令の読み方
7. 租税法の基本原則①（租税法律主義）	7. 代表的な法令用語
8. 租税法の基本原則②（租税公平主義）	8. 公正な解釈のために
9. 租税法の法源と効力①（租税法の法源）	9. 税務訴訟の概要
10. 租税法の法源と効力②（租税法の効力）	10. 判例の意義と重要性
11. 租税法の解釈と適用①（租税法の解釈）	11. 判例の読み方
12. 租税法の解釈と適用②（租税法の適用）	12. 判例の活用
13. 租税実体法の意義	13. 判例研究①（租税法と憲法に関する判例）
14. 課税要件①（納税義務者）	14. 判例研究②（租税法律主義に関する判例）
15. 課税要件②（課税物件・帰属、課税標準、税率）	15. 判例研究③（租税公平主義に関する判例）

4. 到達目標

修得した租税法の知識を活用して、良質の卒業研究論文を完成させる。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

テキストおよび必要に応じて参考文献の予習（60 分程度）

6. 成績評価の方法・基準

課題の発表等を通じたゼミでの貢献度および卒業研究の内容を総合的に評価する。単位の認定必要条件は、おおむね
15,000 字の卒業研究論文を期限内に提出し、当該論文の内容を指示されたゼミの時間で発表することである。

7. テキスト・参考文献

【テキスト】 別途指示する。また、授業のなかで適宜プリント等を配布する。

【参考文献】 金子宏『租税法（最新版）』（弘文堂）

8. 受講上の留意事項

研究テーマは租税に関するものであれば広範に認めるが、法令・学説・判例研究を中心とする租税法学からのアプ
ローチによる論文作成を推奨する。